

林・煩・遊

報恩講
平成三十年
十月

報恩講 法要

十一月三日(土)

午後一時より

読経
法話
おとぎ

報恩講は年内最後の法要で
す

宗祖親鸞聖人のご命日を
縁として

ほとけと成られた故人に

今年一年を報告し、見護つて下
さった事に、また尊い仏縁を下
さっている事に感謝する法要
です

どうか万象繰り合わせのう
えご参詣下さい

報恩講は親鸞聖人のご命日に行う年内最後の法要です。最近はこの法要を迎えると「ああ、その日その日は大変だったがおかげさんで今年も何とか凌げたな」しみじみ感謝の念が湧いてきます。なんて書くときと凄く年寄りになった気がします。がまあ実際初老なので。で初老にもなれば少しは人間が出来上がったかと問われれば、答えは否。

相変わらずその日その時に起こることに翻弄され右往左往、出来上がるところかますます混迷を深めている。

8月のお盆が終わったあたりから母が突然足の痛みを訴え立ち上がることができなくなった。かかりつけのお医者や、大きな病院に連れていきレントゲン採ったりして調べてもらったが骨に異常はない。ここ数年腰椎すべり症で腰が痛く歩くのも億劫になっていた。若いころから出不精で一週間や十日室内から一步も出なくても何ともない性質、痛みがあれば余計、家の中でも動かなくなる。結果足の筋肉が極端に弱り骨に負荷がかかり痛みが発症したようだ。当然どのお医者さんも「痛みがあっても少しでいいから歩いて筋力をつけなさい」とおっしゃる。

早速ケアマネージャーに相談しリハビリができるデイサービスを手配してもらった。

ところが、元々の出不精で飽きっぽい性格、今までいろいろ

ろ趣味も運動もやったが三日坊主、今回も何のかんの理屈をつけさぼる。

「いい加減にしろ！」となる

これが他人だったら「大変ですね、痛いのは。うちの母もこれこれこうで」と分かった風に言えるのだが親だとそうはいかない。

お檀家さんにも私と同年代で足腰の弱ったお母さんの手を引いてお寺にいらして下さる方もいる。そのやさしい姿を見て「俺はできてない」と忸怩たる思いを持つ。

何十年と自由気ままを通してきた母にすれば今更決められた時間、場所、またあれこれ指図を受けながらのリハビリは苦痛なのだろう。今まで通り痛い痛いといと大騒ぎしながらそれでも家でゴロゴロして過ごしているのがよいのかもしれない。しかしリハビリしなければ確実に起き上がれなくなる。そうになったら在宅介護はできないのでどこか施設に入るようになる。本人はそれを嫌っている。

「ああ厄介なばばあ」だと腹が立つ。

ところがこの「厄介」は母ではなく私の問題であると仏法は指摘する。簡単に言えば私の思い通りにいかない事実を「厄介」と感じているのだと。

本願寺八代蓮如上人は

「わしも八四歳なつた。寄る年波で病氣の間、耳、目、手足、体が安らぐ事がない、でもそれはそれなりの病氣だから仕方がない。これも往生極樂に向かつている証拠だと覺悟している。そんな中で法然上人の言葉を思い出す

「浄土を願う人は、病をえて、これもご縁とたのしむ」

とおっしゃった。しかし努力しても病を喜ぶところは全く起きてこない。嘆かわしい。恥ずかしく、悲しいことだ。」

とご門徒への手紙に書いている。わが身でさえ思い通りに行かない。まして、私以外の者が私の思い通りに動く筈がない。全くその通りだ。理屈ではわかつているが心はそれを認めない。なら、「病は氣から」多少はそんな事もあるだろうが私の性根は心もちだの精神論でどうにかできるような生易しいものではない。

皆さん一緒にお勤めする「正信偈」に名が挙がる七高僧の一人曇鸞は3種類の樂を説いている。

一つに外樂。食道樂、着道樂、家道樂など贅沢をする外側の樂しみ。

二つに内樂。これは精神的な樂しみ。

三つ目が極樂法樂樂。これは阿弥陀仏の功德によって得ら

れ、証さしりの智慧から生まれてくる樂である。

普段私たちは外樂が叶えば幸せだと思ふ、内樂になればちよ

っとまじな人間になつた氣がする。

ただどちらも根こは自分の思い通りにしたいという根深い自己満足から出てくる。そして、それは常に變化し、保つことは出来ない。そこに苦惱が生まれる

「仏かねてしろしめして、煩惱具足の凡夫とおおせられたる」
歎異抄

仏法の働きは思い通りにできれば満足し出来なければ他人のせいにする私の闇を照らし明らかにする。恥ずべし、痛むべしの心が湧き上がる、それでも強固な自我は自己憐憫に持ち込んで事実から目を背けようとする。

阿弥陀さんはそんな事もお見通しで私を「煩惱具足の凡夫よ」と呼びかけ、そのお前を救いたいから任せよとおっしゃる。

腹を立て、その根っこにあるジコチュウに気づかされ、落ち込むのだがそこで終わらせてもらえない。「解つてゐる、次行くぞ!」とバン!と背中を叩かれる。

お蔭さまで人生に目標を持たずとも、日々の出来事に右往左往してゐながらも生きていけている

大丈夫、大丈夫!

今年ももう報恩講を迎える時期になりました。一年が過ぎる速さに戸惑うばかりです。

本文がぼやきになったのでついでにここもぼやきます前号に書いたかもしれませんが、大体人生行き当たりばったりなのでこの寺報も毎回締め切りギリギリに書き上げています

大概是しばらく考えていると書くことは浮かんできくるのですが今回は全く出てきませんでした。本当は十月の頭には発送しているはずがこんなに遅くなりました。

報恩講のご案内でありながら直前になってしまった事反省すると同時にお詫び申し上げます。

ただし私の場合、問題は反省したからと言って次回の原稿が確実に思い浮かぶかどうかこれは分からないというところ

です。

多分次回は*****。

因みにお年始の法要「修正会」は

一月六日午後一時からです
それでは、年内最後の寺報ですので、かなり早いですが
よいお年をお迎えください！

住職からのお願い

住職

今東京では火葬場が不足しています。皆さんご経験のとおり通夜葬儀の日程はお寺の都合より火葬場の都合が優先されてしまいます。そ

の為に法事の時間のお約束を頂いていても変更をお願いすることがあります。葬儀をお勤めすることはそのお家の方にとって一生の一大事です。そこは相身互い、どうかご寛恕下さいますようお願い致します

定例行事 いずれもご自由にご参加下さい

聞法会 毎月2日夜7時から、「御文」のお話、座談会をやっています（1月、8月はお休み）

歎異抄を読み聞く会「微妙音」 毎月3日午後2時
十一月はお休みします

白色白光の会（婦人会） 毎月第2木曜午後1時
お経（正信偈）の練習と法話と茶話会

「照久会」浄土真宗初めて講座 二月、四月、六月、十月、
十二月の第2土曜午後2時より5時まで（参加費 2千円、
照久会会員は千円）講師 聞成寺住職 佐竹貫裕師

仏像なぞり書き「仏像描くぞう」
第2水曜午後6時と月の最終日曜日午後3時から

参加費三百円（初回のみ別途テキスト代千円）